

## とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都港区東麻布1丁目26-2 SERAPH10 AZABU1, 2F
園名	ミアヘルサ保育園ゆらりん東麻布

### 1 活動のテーマ

<テーマ>

自然（植物）

<テーマの設定理由>

（テーマ前年度に自然に触れる機会を作ることが出来なかったため、今年度は1年を通して植物に興味を持つことが出来るよう一人ひとりに小さな図鑑を作って配布すると散歩先や図書館の絵本選びの際に植物に興味を持つ姿が多く見られるようになったので、更に興味を広げて深めたいと思いテーマに選びました。に関する子どもの興味関心、園の特色など）

### 2 活動スケジュール

- ① ・身の周りの植物への関心を引き出すために公園に植物の図鑑を持参し、花の種類や名前に興味を持ちながら観察する。4/18
- ② ・興味を持ったものへの関心を更に深めるために観察した中で自分が一番好きだと思った花を写真に撮り、写真を見ながら花の絵を描く。4/21
- ③ ・植物への興味が芽生えてきたころに、食育でも野菜に触れる機会を設けて花や野菜を栽培する導入を行う。5/15
- ④ ・何の植物を育てたいのか、知っている花や野菜について各々意見を出し合いクラスで相談して決めてホームセンターに種と苗を買いに行く。5/15
- ⑤ ・プランター・土・種・苗が用意できた頃に一人ずつ種と苗をプランターに植える機会を設け、自分が水やりをして植物を育てていくという意識を育てる。6//27
- ⑥ ・毎日水やりをして成長した花を観察しながら絵を描いたり、栄養士と一緒に収穫して調理してもらい自分たちで育て上げた達成感と喜びを味わい、次の季節に成長する植物の栽培への意欲に繋げる。7/15
- ⑦ ・好きな花を選んでプランターに植えて育てる 1/29
- ⑧ ・花を育てることで植物への興味が更に深まり、戸外に咲いている植物の名前や特徴などを図鑑で調べる 3/10

### 3 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

#### 【素材・道具】

プランター 土 苗 種 カメラ 図鑑

#### 【環境設定】

- ・草花の特徴や視点など、気付きを発展させられるような声掛けをした
- ・一人ひとりが参加できるよう大きなプランターを用意する
- ・散歩でも持参できる小さな本を作った
- ・植物のお世話がしやすいように玄関付近にプランターを置く。
- ・公共交通機関を使って苗を買いに行くことで、マナーやルールを知る機会となった。
- ・植物の多く咲いている公園で撮影をする

### 4 探究活動の実践

#### <活動の内容>

- ・手作りの図鑑をもって散歩先で同じ草花を見つける。
- ・育てた花の絵を描く
- ・育てたい植物の苗を買いに行く
- ・野菜を育てる
- ・収穫した野菜を給食で出してもらい、味わう
- ・育てたい花をホームセンターで見つけ、購入する
- ・花のお世話をする
- ・公園に咲いている花や木などの自然物に興味をもって、写真を撮り、印刷した写真を見ながら図鑑でその植物の特徴や名前などを調べる

#### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・散歩先でいつもは気づかない小さな草花にも興味関心をもって図鑑を見ながら照らし合わせる姿が見られた。
- ・植物の絵を描くことで植物の構造や不思議さを発見しながら描くことができた。子どもたちの小さな疑問を図鑑などで一緒に調べるようにした。
- ・野菜を育てることで、野菜を育てることの大変さを知り、給食でも苦手な野菜をすぐに捨ててしまうのではなく、もったいないという気持ちを持てるようになった。
- ・ホームセンターには様々なものが売っていることをしり、こんなものまで売っているんだなという発見があった。
- ・毎日植物に水をあげることで、花も生きていることをしり、大切に育てる意識が芽生えた。



## 5 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき

・自然というテーマにしたが、植物だけでなく自然とは壮大なテーマで、もっと視野を広げて色々な物へと発展できるようテーマを植物だけに絞らなければ良かったと感じた。

・植物なので、夏場は戸外に出られないことが多く、活動が少なくなってしまった。室内でも育てられるものも用意できれば一年を通して楽しめたのではないかと思う。

・植物を観察することでその他の危険な生物に興味を持つなど子どもの興味が発展していった。

・植物もお世話をしないと枯れてしまう、生きているものだということを気づき、優しい気持ちを持ってお世話をする様子が見られるようになり、植物というテーマすくわくができて良かったと思う。

・写真を撮る際にデジカメを使ってしまったので、だれがどの写真を撮ったかがいまいちわかりずらくなってしまったので、写ルンですの様な使い捨てカメラをひとりひとりに渡し、一年を通して様々植物を撮影し、最後に現像するというやり方もあったなと感じた。